カリフォルニヤ

SAN MARINO
CALIF

カリフォルニヤ

阿川弘之

新潮社

カリフォルニヤ

定價 300 圓

昭和34年11月26日印刷
昭和34年11月30日發行

著者　阿川弘之

發行者　佐藤亮一

發行所　株式會社　新潮社
東京・新宿・矢來・71
電話東京(34)7111～9
振替東京808番

印刷　凸版印刷　製本　神田加藤製本所
© by H. Agawa Printed in Japan

カリフォルニヤ

裝幀　長尾みのる

（撮影　高橋尚数）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

第一章

一

船は四千五百浬の航海を間もなく終らうとしてゐる。

船長は既にブリッヂに上つた。前甲板では、水夫たちが港の近づいた事を示すやうに、生きくと働き始め、ウキンチやデリックの動く輕やかな機械音がしてゐる。

天氣は快晴で、風はやはらかな北西の微風だ。

あんなに濃く黑かった北太平洋の海の色は、今朝からパステル・カラーに變つた。不透明な明るい色をしたおだやかな長濤が、船尾の方角から規則正しく本船を追つて來てゐるが、船はもう搖れる事をやめて、深い船脚を靜かにサンフランシスコに向けてゐる。

マストに赤白のH旗が揭げられたのは、水先案內人が移乘を終つたしるしである。此の、合衆國の最初の觸手、正味十日と十五時間目に陸の匂ひを運んで來たアメリカ人は、さき程其の精力的な長身を、私たちにちらりと見せて、無線室横の階段を登つて行つた。

小さなモーター・ボートを收揚した大型のヨットが、左舷を遠ざかつて行きつつある。二本マストのヨットにモーター・ボートを積んで觸接して來るのが、サンフランシスコ港のパイロットの傳統的

な作法で、世界の他の港では見られない事ださうだ。
陸地が見えて來てゐるやうだが、それは朝靄につつまれて未だ定かでない。金門橋までは、あと約十浬だ。
今から一時間後に、船は金門橋の下をくぐり抜ける。初めてアメリカに入國する日本の旅行者たちは、此の時殆ど例外なしに、期待と不安とで少し異常になる、――これは、此の船の事務長から聞かされた話だが、
「夢の國が眼の前にあらはれて來たやうにはしやぎ出す人もありますし、まるで敵前上陸のやうに緊張してしまふ人もあるし……。」と彼は云つてゐた。
先手を打つてからかふやうな事を云はれたので、私は成るべくさりげない樣子を裝はうと決めて來たが、やはり今朝方から、鏡の中の眼の色にも、朝食のトーストに對する食欲にも、焦躁感は隱す事が出來ないやうだ。
金門橋を過ぎてサンフランシスコ灣に入ると、船は一旦檢疫錨地に錨を入れる。そして、乘つて來た檢疫官の許可が下りるのを待つて、錨地を去り、岸壁に横附けになつて、其所で合衆國移民官による入國手續と、税關の旅具檢査とが始る筈だ。
M汽船の此の伊吹山丸は、九千八百噸の新しいニューヨーク定航船だが、貨物船である爲、船客は二つの清潔なステイト・ルームに私とも四人しか乘つてゐない。右舷の船室を二人の女性が占め、私たち二人の男性が左舷の部屋を占めて、暦の上で足かけ十二日間の航海を共にして來た。乘組員たちは禮儀正しく、それ程ひどい時化にも遭遇せず、先づ〳〵無事で愉快な船旅であつた。
私たちは、四人とも日本人だ、と云つても差支へはないだらうが、然し、二人が日本人で、あとの二人はアメリカ人だと云つた方が、むしろ正確であるかも知れない。

ともあれ、あと一時間と少々で、伊吹山丸はエンヂンを停止し、旅は終り、私たちは別れる。然し、物語はこれから始るので、航海を一緒にした此の人々には、今後私の此の手記の中で、何かの役割を引き受けて貰ふ事になるかも分らない。カリフォルニヤの陸地と、サンフランシスコを象徴する赤い橋とが見えて來るまでの間に、一と通りの紹介をして置いた方がいいだらう。

二

アメリカ合衆國の移民係官の質問要領に似せて、西洋流に女性から始める事にするが、最初に、

野島光枝夫人。二十一歳。戰爭花嫁。

入國目的、夫と合する爲。

行先、カリフォルニヤ州フォート・オード。

彼女は姙娠してゐる。お腹の子の父親は、今ごろ多分、サンフランシスコの波止場まで、此の船を迎へに出てゐる筈の、合衆國陸軍のブラウン一等兵である。二人は埼玉縣の某地で十ケ月前に識り合つたのださうだ。

航海中私たちは、彼女を「野島さん」と呼んでゐたが、ほんたうは「ブラウンさん」又は「ブラウンさんの奥さん」と呼ぶべきであつたらう。近い將來に、彼女が正式に合衆國市民になる事は、確實なのだ。

此のアメリカ市民候補者は然し、英語はまともには話せないやうだつた。彼女が英語を口にするのを聞くと、私の耳にも、それが明らかな基地言葉である事が分つて、高校の英語教科書の英語とは、大分ちがつてゐた。但し、どちらの言葉が用を辨ずるのにより役に立つかは、別問題であらう。

彼女は、まめで氣さくで、其の上恐らくは少し浮氣つぽい性で、隨時、私や若い乘組員の船室をノックして、

「よごれ物があつたら、出さない。ランドリー・サービスやつたげるわよ。どうせ序でだから。」と、シャツや下着を、山ほど、腕まくりをして持つて行き、いつも船内の電氣洗濯機を使つて、洗濯と、アイロンかけの奉仕をしてくれたが、其のお禮心にしても、大層美人といふわけには行かない。

然し、若さで筋肉のよくひきしまつた其の淺黑い小肥りの身體は、或る種の男好きのするタイプだとは云へるだらう。顏は、殊に化粧を落した時には、健康な田舍娘の面影がある。顎の横に小さな肉色の疣があつて、或る時にはそれが、下品な印象を與へるが、向き合つて話してゐて、男が其の疣をいぢつてみたい誘惑を感じても、それは仕方がない。

彼女の方ではそれ程にも思つてゐないのに、夫君のビル・ブラウン一等兵が、ひたすら彼女の到着を待ち焦れてゐるやうな口振りで、彼女が自慢話をするのは、まんざら嘘ではなささうであつた。

ブラウン一等兵は、彼女より一つだけ歳上の二十二歳、モントレー半島のフォート・オードの兵營にゐるのだが、間もなく除隊になるのださうで、軍籍を離れたら、鄕里の加州フレスノ市で、自動車屋を始める手筈になつてゐる。だが、自動車屋といふのは、タクシー業なのか、自動車販賣業なのか、それとも自動車修理業なのか、其所のところは光枝夫人にも、はつきりしてゐないやうであつた。

「G・Iと結婚した人でもね、黑ちやんと一緒になつたのは、ほんとに可哀さうよ。」と時折り彼女が云つてゐたのは、ビル・ブラウンが白人である事を、私たちに認識させて置く爲らしかつたが、彼女の口裏を信用すれば、夫君のブラウン青年は、「いい家の出の」至極氣の弱いお坊ちやんであるらしい。さきに日本を引揚げる時、彼女には立川發の軍用機に便乘して、出來るだけ早く追つて來るやうにと、頻りに賴んでゐたらしいが、彼女は、

「大きな汽船で、澤庵と納豆食べて、氣樂にゆつくり行く。」と云つて、頑固に日本の貨物船を選んだのださうである。察するに、夫から水增しの船賃をドルで送金させて、餘分を埼玉縣の田舍の弟妹たちに、置土產にして來たらしい節があつた。彼女は長女で、妹が三人、弟が四人ゐるのだ。

伊吹山丸の甲板で、彼女は每朝、サンダル靴を穿いて、綠色のビニールの綱で繩跳びをしてゐた。桃色のマニキュアを塗つた四角く平べつたい足指の爪が、全部まる見えで、マニキュアはいつも剝げちよろけてゐた。

彼女の繩跳びは、出來れば流產を促す爲であるらしかつた。

アメリカへ入國すれば、人工流產は法の禁ずる所となるし、夫のビルは子供を樂しみにしてゐて、日本で始末をつける事を許さなかつたし、アメリカへ行つたら、未だ、おむつの世話よりもう少し面白い事のしてみたい彼女は、出發の前に、半日ブランコに乘つて尻の皮をすりむいた事があるさうであつた。

お腹の子は然し、タフな赤ん坊らしく、ブランコも繩跳びも效果がないらしくて、それに彼女は、惡阻と船醉ひとをあまり感じないらしく、運動が足りてゐるので、船の食堂で旺盛な食欲を發揮した。スチーム炊きの、船の炊事場の匂ひのする米飯を、味噌汁椀の中へ打ちあけて、丈夫な齒で澤庵を音を立てて嚙みながら、兩肘張つて何杯もよくかきこんだ。その食ひ振りは、もしかすると暫く前まで、米の飯は、彼女にとつては貴重品であつたのではないかといふ想像を、人にさせる所があつた。

私たちの食事の場所は、船長、機關長以下數名の高級船員と、私たち四人の船客だけが集る所謂一等サロンである。貨物船の事で、一等も三等もないのだが、兎も角、紅のカーテン、黃色い椅子、デコラ張りのテーブルと白いテーブル・クロス、多少の上品さうな空氣が支配してゐる部屋で、百花鳥獸の描かれた壁には、時計がはめこんであつて、其の下に、立派なRCAのハイ・ファイとラヂオの

コンビネーション・セットが置いてある。夕食には、不味い癖に勿體ぶつた洋食のフル・コースが出る事も、度々あつた。光枝夫人は、此所で食事の時に、スープをひどい音を立ててすすつたり、バター・ナイフを、厚く塗つた脣の中へ「氣樂に」突つこんだり、夜おそくまで、同じ島倉千代子のレコードを五遍も六遍も、ハイ・ファイの蓄音器にかけたりして、或る人々の顰蹙を買つてゐた。一等航海士を初めとする數人の士官たちは、アメリカ合衆國の一億五千九百萬の人口に、又ぞろ、一乃至一・五の國家的不名譽分子が加はりに行く事に、憂鬱を感じてゐるやうであつた。

私は然し、戰後に學生生活を送つて、國家的不名譽に對して不感症になつてゐるせゐか、野島光枝がミセス・ブラウンになつて、アメリカの人口を殖やしに行く事に、一日本人として、格別どんな意識も持たない。澤庵と納豆の好きな彼女が、在留同胞の社會とは別のアメリカ社會に、これからどう適應して行くか、其の適應の仕方の方が、むしろ私の興味をそそるやうだ。

そして航海中、彼女は結構、私のいい話相手であつた。私は縄跳びのつき合ひをして、船醫から苦い顔をされたりした。

「客船のドクターですと、お產の經驗のある人もゐるし、ナースも乘つてゐるけど、私は產婦人科はカンニングで卒業したんだから、勝手な事をしても、知りませんよ。」と彼は云つた。光枝夫人は、そのあと、舌を出して、私に握手を求めた。彼女の手はあぶら手で、とても濕つてゐた。

三

もう一人の女性の船客は、小川京子。二十三歳。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

入國目的、留學。
行先、ロサンゼルス郊外、セント・ステファン・カレッヂ。
東京の音樂學校を中途退學して、留學生試驗に合格し、アメリカへ三年間滯在の豫定で行くのだ。
横濱出港のをり、一番たくさんテープをひいて、一番たくさん泣いたのは、此のお孃さんであつた。
靜岡の金持の娘で、父親は公務員。横濱の棧橋に、見送人の名刺受が出來た。五十五六歳のお父さんは、出港前のあわただしい船內を、隨員を隨へて、船長の部屋、事務長の部屋、私どもの部屋と、一つ一つ、
「不束な娘ですが、何分よろしくお願ひ致します。」と云つて、名刺を配つて歩いてゐた。
「パパ、何云つてゐるのよ。よしなさいよ。みつともないわよ、パパ。」と云ひながら、京子は泣いてゐた。
アメリカに對して、素直な新鮮な、最も大きな青い夢をいだいてゐるらしいのは、此の人である。
音樂學校では、聲樂科に籍を置いてゐたのださうだが、寄宿舍の女友達たちの、意地の惡いねたみの多い、濕氣た空氣に愛想をつかして、「もつとカラリとした國へ行つて勉强したくなつた」のが、留學の主な動機だといふ事であつた。
「あなたのピアニッシモ、ほんとに素敵ねつて、皆で云ふのよ。わたし、本氣にして、さうかしら？嬉しいわ、有難うなんて云つちやふぢやないの。さうしたら、蔭で京子の事、田舍の出だけあつて頓馬だつて笑つてるんです。ピアニッシモが素敵だつていふのは、つまりフォルテがなつてゐないといふ洒落なんです。かういふ意地惡つて、男の人には分らないんぢやないかしら？　わたし、日本がいやになつたのよ。」と、京子は云つてゐた。
肌の美しい色の白い娘で、二の腕に、割に濃いうぶ毛が生えてゐる。私は、觀音崎の燈臺が見えな

くなつて、彼女が力落ちしたやうにぼんやりしてしまつた時に、初めて氣がついたのだが、此のお孃さんは、獨りでものを想つてゐるやうな時には、よく、八重齒ののぞく、濡れて透明な色をした薄い脣を、半分ひらいてゐる。それが、脣で求められてゐるやうな感じを男に起させて、たいへん官能的なのだ。健康で若くて、其の健康さを發散する場所を失つてゐる乘組員たちの中にも、刺戟を受ける人が少くなかつただらう。二十五歳の三等航海士は、デッキに京子の姿を認めると、顏を赤らめて、いつもすぐに、自分の船室へ姿を消してしまつた。

春の北太平洋の月明の晩、ライフ・ボートの白いペンキの色が月光に泛んでゐる甲板で、彼女が海に向つて、「アイーダ」を歌つてゐるのが聞えて來たりすると、誰もが、惱ましい旅の想ひにかられるのであつたが、何分素人ではないから、フォルテが充分でないと云つても、彼女の聲量は相當なもので、屢々所在がはつきりしすぎる爲か、彼女に拔けがけの囁きの出來た人は、誰もゐなかつたらしい。彼女をめぐる男女關係は、航海中、結局太平無事で終つた。

京子は然し、同室のブラウン夫人とは、あまりそりが合はないやうであつた。

「あの戰爭花嫁さん、お部屋の洗面場でね、……いやだわ、下着洗ふのよ。」と、彼女は私に云つた。野島光枝に度々洗濯物を託してゐた私は、ぎくりとして、返事に窮した事がある。

光枝夫人の方でも然し、此の、苦勞知らずのお孃さん留學生は、あんまり面白くない存在であるらしかつた。京子が一等航海士と、朝のサロンで、或る種の渡米者のエチケットの不足量について論議をしてゐたのが、光枝の耳に入つて、

「あんた、ずゐぶんお上品ね。」と、京子は食つて掛られた事があるらしい。「だけど、あたし、もうすぐアメリカ人になつてしまふんだから、いいぢやないの。我慢しなよ。」と。

其の晩光枝が、「おやすみなさい。」と云つたら、京子は、返事をせずに、さつとカーテンをひいて

しまつたさうだ。

此のやりとりは尤も、私は、縄跳びのお相手をしてゐて、光枝から面白づくに、身ぶり手ぶり入りで聞かされたのだ。

光枝は、私を味方にして置きたかつたに違ひない。そして私も、どちらかと云へば、京子のやうな女性には、光枝夫人と一緒になつて多少のもやくを感じなくもないのだが、もう一つ別のもやくは、どちらから感じるかと云へば、それは三等航海士と一緒にならざるを得なかつた。綠色のカーテンを閉ぢて、寢床の上でふくれてゐる京子の姿を、私は想像した。私は京子の夢を見た。

船の中の、かういふ閉ざされた社會では、誰も格別、本氣で愛してゐるわけでも愛されてゐるわけでもないのに、三角關係が生じる事があるらしい。それは、ペンキ塗りの鋼板の上に生じる擬似三角關係だ。陸地が近くなつたら、自然に解消する。船員たちは、さういふ點をよく心得てゐるやうだが、カリフォルニヤの土を踏むまで、暫くの間、事柄を不必要に混亂させないやうにして置く爲には、われわれにも多少の心理的技巧がお互に必要だらうと、私は思つてゐた。

にもかかはらず、私は京子からは、次第に少しづつうとまれ始めてゐるらしかつた。もしかしたら、憎まれ始めてゐるのかも知れなかつた。光枝に度々洗濯物を出すのと、縄跳びの馬鹿騒ぎとが、よくない事の最たるものであるらしかつた。其の上、私は光枝の方からは、

「あんた、あんな娘つ子が好きなの。丁度似合ひかね。」などと嫌味を云はれてゐた。

四

其の次は私と同室の男性で、

町田良太郎。四十歳。二世。

アメリカ流に呼べば、フランク・R・マチダで、アメリカに妻子のある此の人の場合は、入國ではなくて、歸國である。

歸國先、カリフォルニヤ州、サウス・サン・アントニオ。

職業は百姓で、サウス・サン・アントニオといふ地名は、伊吹山丸備へつけのアメリカ合衆國の地圖には出てゐない。中部カリフォルニヤの、どこか、よほど僻村であるらしかつた。

五尺八寸、二十貫は優に越えてゐるだらうと思はれる堂々たる體軀の持主で、頬から顎へかけて七面鳥のやうな肉がだぶついてゐる。アメリカでは百姓でも、こんなに榮養が足りてゐるといふ見本のやうな男である。

日本語は一應不自由なく話すが、日本へは生れて初めての旅だといふ事であつた。良太郎は、戰爭中はイタリヤ戰線に出てゐたので、戰後進駐軍の兵士としても、日本を訪れる機會は持たなかつたのださうだ。

同室になつて、私はすぐ、

「それで、日本は如何でした?」といふ月並みな質問をした。

「櫻が咲いてゐた。」と町田良太郎は答へた。「綺麗だつた。つめたい、澄み切つた雪どけ水の流れる小川があつた。私の父が生れた村だ。美しい川だつた。私は毎日、其の川で鮒を釣つて暮らした。村の人たちは、大體において私に親切であつた。私は、村の青年二人を、近い將來、私の所へ呼び寄せる約束をして來てゐる。然し、村を出て、東京のホテルを根城に、北海道から九州まで三週間の旅をして、私は必ずしも幸福ではなかつた。」

「戰後、二百六十萬人のアメリカ人が日本を訪れて、其のうち二百萬人までが、日本に來てよかつた

と思ひ、日本で面白い生活をして、滿足してアメリカへ歸つてゐる。」と町田良太郎は續けた。「其の二百萬人は、日本の言葉は分らない。こそこそした蔭口を聞く耳を持たず、白い皮膚と青い眼と、ドルの入つた財布とを持つてゐれば、彼らが日本中到る所で出あふのは、卑屈に近い尊敬と奉仕、控へ目な態度と寛容の精神、そして神祕的なやさしい微笑だ。少しぐらゐの變な事は、我慢する事が出來るし、好意的に解釋する事も出來る。然し、殘念な事に、私は日本語が分り、其の上、あなた達と同じ皮膚の色、眼の色をしてゐた。時々、私は自分が全く日本語が出來ないやうな顏をして過ごしてみたが、卑屈な態度を取つたあと、日本の人たちが、裏で、裏だけで、どんなに恥知らずにアメリカ人の惡口を云つてゐるかを私は聞きつけた。而も、其の惡態は、それも亦必ずしも本心ではなくて、自分らの卑屈さを償ふ一つの身ぶりであるといふ、こみいつた事情にも氣がついた。私は、彼らのやさしげな微笑の蔭にあるあいまいな狡猾さと、嫉みの心と、意外な不寛容とを、嗅ぎ出さないわけには行かなかつた。

電車の中で、私は、二人の紳士が長い間かかつて、一つの空いた席を讓り合つてゐる情景を見た。彼らが互に、相手に對する尊敬の念から、自分が席を占める事を中々肯じないでゐる間に、一人の荷物を背負つた老婆が、横から其の席へもぐりこみかけた。すると片方の男が、其の老人を突きのけて、遂に無理に、もう一人の男を腰かけさせた。腰かけた男は、金齒を出して笑ひ、二三度お辭儀をして、それから眼をつぶつてしまつた。こんなに互讓の心に滿ちた禮儀正しい二人の男が、何故第三者の、年とつた女性にも、同じやうに禮儀正しくないのか、私は奇異に思つて、數人の日本人の友人に問ひただしてみたが、そこで私が意外な發見をした事は、かういふ疑問乃至批判は、青い眼のアメリカ人の口から出る時、それは新聞記事になる程貴重な參考意見であるにも拘らず、私のやうな、日本人の血を受けたアメリカ人が云ふと、分を出過ぎた生意氣な意見として、默殺されるといふ事實であつた。」

「私の心にあつた日本は、父や母の物語に聞かされてゐた、古い美しい日本だ。」良太郎は更に續けた。「清らかな自然と、禮儀正しい人々にあふれた、それは、古い氷漬けの日本だつた。其の時代ばなれのした夢が裏切られたのが、私の失望の原因の一つであるかも分らない。然し私は、それについては、すぐ理解する事が出來るやうになつたと、自分で思つてゐる。曲りなりにも、私たちの國と、四年間近代的な戰爭をやり拔いた國が、いつまでも、紙と木と花とのお伽話の國で留つてゐるわけはあり得ない。私たちの父母が國を出た頃から、戰爭の時期を經てこんにち迄、日本が急速な工業化、近代化を遂げて來てゐるのは、當然の事だ。然し、其の近代化し工業化した日本といふのは、埃と騷音にまみれた、極度に安手な西洋のイミテーションだといふ印象を、私は拭ひ去る事が出來なかつた。カメラはドイツの、電氣機關車はフランスの、腕時計のデザインはスヰスの、そして其の他の多くの物はアメリカ合衆國の、それ〴〵最新型の製品のイミテーションであるらしかつた。

東京に滯在してゐるアメリカの知識階級の人間が、日本人の事を何と呼んでゐるか、あなたは知つてゐるか？『Japanese are copiers.』といふのだ。『物眞似日本人』といふのだ。物眞似をする事、人の獨創を敷きうつす事、これは惡い。アメリカ流の教育を受けた人間には、少くともこれは、非常な恥づべき事だ。私は、觀光バスに乘つて東京を見物して廻つた。ニューヨークと同じ程巨大な此の大都市の道路は、ヨーロッパのどこの三流都市にも見られない程物凄まじかつたが、それはいいとして、ニューヨークにも無いやうなテレビジョンの大鐵塔が建ちつつあつた。それは未だ裾の方が出來上つたばかりであつたが、一見して、パリのエッフェル塔に非常によく似てゐるやうに思はれた。私はテレビジョンの技術の事は何も知らない。機能上、パリの鐵塔を摸寫する必要があるのなら、それも仕方がないかも知れない。然し、それは少々羞づかしい事だから、そつと默つて置いた方がいいのではないだらうか？　ところが、バスの案内ガールは、むしろ誇らしげに、そしてにこやかに、右手を差

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo